

令和3年度

拓殖大学第一高等学校入学試験問題

一般 I 《国 語》



注意事項

- 1 この科目の解答時間は50分間です。
- 2 開始の合図があるまでは問題用紙を開かないこと。
- 3 落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所がある場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- 4 解答は必ず解答用紙の指定欄に記入すること。
- 5 本文からの抜き出し問題および記述問題については、句読点やかっこもそれぞれ一字に数えます。
- 6 受験中は鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、受験票以外は机上に置かないこと。
*下敷きの使用は禁じます。
- 7 終了の合図と共に筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。

受験 番号	
----------	--

次の各問いに答えよ。

問一 次の傍線部のカタカナを漢字に直せ。

- 1 サイキをにかけて練習に取り組む。
- 2 彼女はレイタンな人物に見える。
- 3 この小説にはヒアイを感じる描写が多い。
- 4 ハイスイの陣の覚悟を持って試合に臨む。
- 5 主人公がヒレツな仕打ちを受ける。

問二 次の傍線部の読みを平仮名で答えよ。

- 1 自らの力で勝利を手に入れた。
- 2 人々を扇動する。
- 3 思わず吐息をもらす。
- 4 家族の生活が双肩にかかる。
- 5 健やかな成長を見守る。

二

次の文章と図は、安宅和人『シン・ニホン』の一部である。これを読んで、後の問いに答えよ。

【文章】

今世の中で起きている変化については、経済、科学技術、地政学的な重心という視点でここまでかなり広範に見てきた。しかし、意図的に触れなかったことが1つある。それは我々生命すべての住む母体であり家である地球の状況だ。

人間は植物のように太陽や水、空気、地下からの栄養素だけで生きることができない。食物が必要であり、立ち返る場所として豊かな緑・自然が必要だ。またその前提となる気候にある程度の安定性が望まれることは明らかだ。①それぞれの視点で見よう。

枯渇する水産資源

まず食物。日本は世界に冠たる水産王国だ。土地は世界のすべての陸地の0・25%（61位）に過ぎないが、海岸線の長さは各国総和の3・8%で世界で6番目。また、魚を食べることが我々の文化の中心の1つにあること、日本文化のアイデンティティの1つであることは言うまでもない。その主役というべき海産資源について見てみよう。

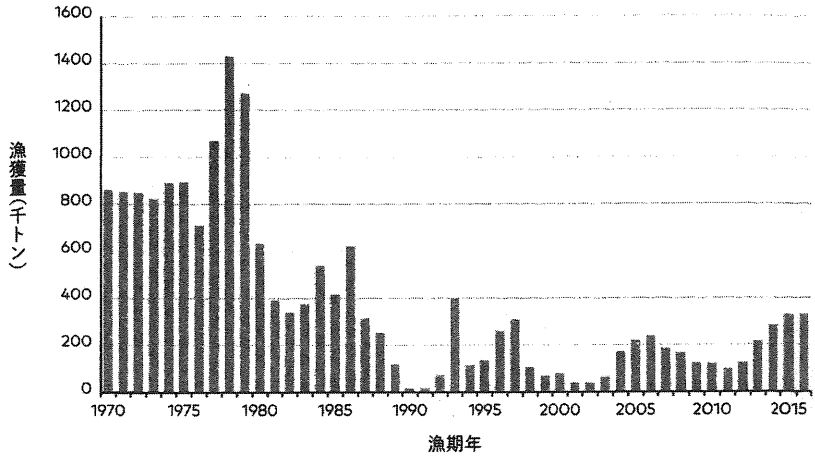
サバは廉価で栄養価の高い魚であり、マグロなどの食物連鎖の高い位置に位置する魚たちの餌としても重要だ。あたかも無限にいるかのように思いがちだが、太平洋のマサバはかつて漁獲量が147万トン（1978年）もあったのが1990年には2万トンにまで減るといふほど I に近い状況だった（図1）。2016年では漁獲量33万トンと II 基調に見られるが、70年代の平均の3分の1程度であり予断を許さない情勢だ。

また夏の暑さを乗り越えるために万葉集の時代から食べられてきたウナギも I に近い状況にある。ニホンウナギの稚魚は1960年頃に200トン以上捕れていたが、今は4トン程度しか捕れていない。50分の1以下だ。

地球上の大型生物の質量構成

次に、地球上の生命の中における人間及び人間の周りの動物たちの存在について見てみよう。これはユヴァル・ノア・ハラリの『ホモ・デウス』（河井書房新社 2018）に出てくる^③息を呑むデータを描き直したものだ。（*図は省略）

（図1） マサバの漁獲量推移



資料:水産庁 第29回太平洋広域漁業調整委員会資料 2018年11月28日

ウナギは卵からの養殖方法が実質的でない。^②国内流通量(4・8万トン)のうち輸入(3・3万トン)のほぼすべてが漁獲によるものではなく、稚魚から餌を与えて育てる養殖、蓄養で育てられたものだ。漁獲による天然うなぎは輸入を除く1・5万トン中、68トン(国産の0・45%)しかないのだ。また、輸入といっても、ほぼすべてが日本の資本が多く入った中国・台湾の拠点で生産されている。これらも基本すべてが蓄養であることも言うまでもない。

(中 略)

米国北部からカナダの東海岸にかけて広がるグランドバンクスは数世紀にわたり世界最大のタラ漁場であることを誇ってきた。年100万トン単位の莫大な量のタラが捕れ、1969年のピーク時には400万トンを超えていたという。しかし1990年には150万トンを割るようになり、1992年以降タラはカナダ政府の判断により禁漁になった。それ以来、資源^{II}の兆しは見えていない。2003年にカナダ政府の専門委員会が調べたところ、群れの数は過去30年で97%減少していることがわかり、極めて^Iの危険が高い種に指定された。

地球上の大型動物の質量構成を見てみると、人間が3億トン(27%)、家畜7億トン(64%)、野生動物1億トン(9%)という少々驚くべき状況だ。この星の上にいる動物は9割以上が人間世界のものなのだ。家畜とて無限に飼えるわけではない。しかも彼らのCO₂やメタン排出が無視できない問題であることはこの20年来、議論になってきたとおりだ。

森林の隠れた課題

問題などないかのように見える森林にも課題が多い。写真(*写真は省略)は美しい奥会津の一風景だが、よく見ると杉とヒノキばかりの森になっている。戦後の復興期から高度成長期にかけて、天然の森の木をひたすら倒して使い、その後、これらの真つすぐ、かつ景気よく伸びる樹種ばかりを植えた結果、日本中至るところで同様の現象が起きている。このⅢ性の低い森は花粉症の大きな要因の一つでもある。

アロマセラピーでよく使われるヒノキチオールが虫除けにもなることからわかるとおり、このような森はあまり多様な野生動物の生息には適していない。実際、これだけが理由ではないものの、かつて大量にいた多様な野生動物は死滅したか、もしくは絶滅に瀕しているものが多い。前項の数字に表れているとおりだ。

日本ではシカ的大量発生などがよく話題になっているが、これは自然の豊かさを示すものではなく、A生態系(エコシステム)が全体としてバランスを崩してしまっていることの一面を表しているにすぎない。この結果、本来いなかった南アルプスの高地にまでシカが広がり、高山植物がほとんど食べ尽くされるといふことすら起きている。

よくオオカミが(100年前に)消えたことがシカ的大量発生の原因だと言われるが、それよりも、日本の山村から人がいなくなったために農地や森林の管理ができなくなったことが理由としては大きいという。田畑が放棄され、森林に手入れがされなくなつたところにシカが侵入するようになり、栄養価の高い食物がたくさんあるために増えすぎ、奥山のほうにまで拡大したと

いうことだ。

森の Ⅲ 性喪失は全世界的な問題でもある。かつて地球上のさまざまな場所に数多くいたゾウ、ヘラジカ、バイソン（これは日本列島にも相当数いたことがわかっている）、ヒョウ、ライオン、オオナマケモノなど多くの大型動物も、人間が登場してから大半が絶滅してしまった。原因については人間の餌食になったという説と気候変動によるものという説が入り混じっているが、多くの大陸で見られる人間の上陸と大型生物の消滅タイミングの合致度合いを見る限り、我々人類の先祖がいなければ起きなかった部分が相当あることは否み難いだろう。

あれほど緑の多いヨーロッパにおいても、本物の天然林はほとんど残っていない。ドイツが誇るシュヴァルツヴァルト（黒い森）も植林されたトウヒを中心とする人工林だ。ほぼ唯一の例外とされるビアロウイエージャ原生林（総面積1500平方キロ、ポーランドとベラルーシの国境をまたぐ）は嚴重に保護され、一度も皆伐されることなく全ヨーロッパ史を生き延びてきたとされるが、その46平方キロほどの中心部すらも、決して手つかずではない。

人間の圧倒的なエネルギー消費

我々地球上の生物の大半にとって、生きることは呼吸することだ。 B 何らかの炭素化合物を体内で酸化させ、そこからエネルギーを取り出し、水と炭酸ガス（ CO_2 ）を吐き出す。

この CO_2 が（おならや家畜のゲップなどに特に多く含まれる）メタンなどと共に温暖化の原因になっていることが明らかになって久しい。

みなさんが一日生きているとどの程度の CO_2 を吐き出されているか計算したことがあるだろうか。エネルギー源のすべてが炭水化物であるとして考えてみると、比較的簡単に計算できる（実際にはおおよそ炭水化物60%、脂肪25%、タンパク15%）。炭水化物の生み出すカロリーがグラムあたり4 kcal（タンパクもほぼ同じ）、一人あたりの消費カロリーがおおよそ2000 kcalなので、すべて

のカロリーが仮に炭水化物から来しているとすると1日約500グラムの炭水化物を消費していることになる。500グラムの炭水化物は733グラムのCO₂を生み出すので1年に換算すると733×365=268kg=約0・27トン。実際には家畜がそれなりの数がある。世界全体の質量構成通り、家畜が人間の約2・4倍おり、質量(体重)あたりのCO₂排出量が同じレベルとすると年間0・27トン×2・4=約0・65トン乗ってくるので一人年0・92トンとなる。

正直この程度であればそれほど問題はない。杉人工林1ヘクタール(100メートル四方=約3000坪)で年8・8トンのCO₂を吸収するので、1ヘクタールの森で9・6人分、1平方キロで960人分のCO₂がまかなえる。ちなみに日本の土地の森林面積割合は67・0%、25・3万平方キロ存在しているので、すべてが杉林であると仮定すると、25・3万×960=2・4億人分の吸収余力があることになる。

ただ、問題は現代社会のCO₂を生み出す量が、この生物学的な排出とは比較にならないほど多いことにある。実は日本人は一人年間9・5トン、人間自体の呼吸量の35倍強のCO₂を排出している。電力、産業用途のエネルギー、交通機関の推進力を生み出すために必要なエネルギー量が膨大なためだ。IPCCのレポートにあるとおり、この大半が化石燃料とセメント由来だ。この値に人間や家畜の呼吸を含めると、年一人あたりIVトンものCO₂を生み出していることになる。これは体重が平均70kgの人間がそのまま大きくなったとすると、なんと2・7トン、半ば象になったも同然の値ということになる。日本に1・2億頭以上の象がいる世界を想像してほしい。

この結果、当然のことながら地球上の余剰熱エネルギーは加速度的に増加している。残念ながら現在のところ、地球上では水しか膨大な熱を吸収する余力がないため、膨大な海がひたすら熱を吸収している。米国海洋大気庁(NOAA)のレビタスらの調べによると1985年から2005年までの20年だけで海洋に溜まっている熱量は10倍以上にのぼる。

成長の前に星がもたない

北極や南極の氷山が急激に溶けていることに心を痛めている人は僕だけではないだろう。一方、これらの氷の融解による熱吸収がなかったら今とは比較にならない気温上昇がすでに起きていた可能性が高い。海面上昇問題など課題は多いが、^④氷があったことが僥倖とすら言える状況だ。

ただ、雪や氷の表面が失われるということは、加速度的に地球が熱を蓄積しやすくなることを意味している。アルベド (albedo) と呼ばれる地球の太陽放射の反射率が大きく変わるからだ。

(中 略)

この海洋に蓄積される熱量の大幅な上昇に伴い、海面の上昇気流は極めて発生しやすくなっている。すでに北米では晩秋から冬でも台風と呼ぶべき巨大な低気圧が時折来るようになって久しい。その強い低気圧に北からの寒気が流れ込み、時折、ニュージャージー州など東海岸北部では氷点下10度以下になって氷結している。爆弾サイクロン (Bomb cyclone) と呼ばれる気象現象だ。

(安宅和人『シン・ニホン AI×データ時代における日本の再生と人材育成』より)

問一 傍線部①「それぞれの視点」とあるが、視点は何点あるか。次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 8つ

イ 7つ

ウ 4つ

エ 3つ

オ 2つ

問二 空欄 I ・ II に入る語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 悪化

イ 限界

ウ 絶滅

エ 減少

オ 輸出

カ 輸入

キ 回復

ク 増加

ケ 増殖

問三 空欄 A、B に入る接続詞として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア もちろん

イ つまり

ウ なぜなら

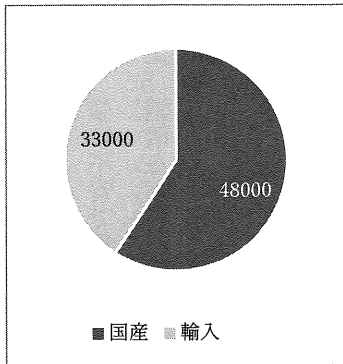
エ したがって

オ むしろ

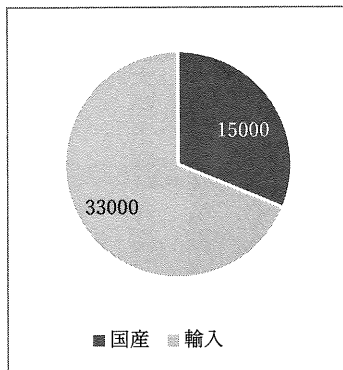
問四 傍線部②ウナギの「国内流通量」を表すグラフとして最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えよ。

(グラフにおける単位はすべて、トンとする)

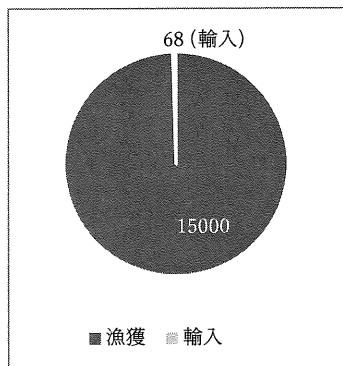
ア



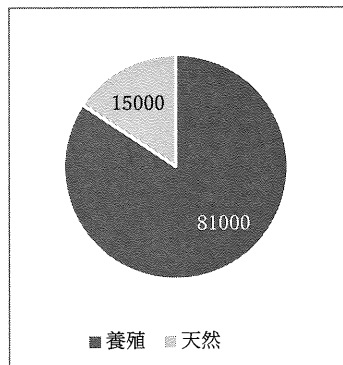
イ



ウ



エ



問五 傍線部③「息を呑むデータ」とあるが、この部分に関する以下の問い(i)・(ii)に答えよ。

(i) 傍線部③における「息を呑む」の意味として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えよ。

ア 驚きで一瞬息をとめること

イ 深刻に受け止めて黙ること

ウ 強い不安で息もできないこと

エ 素晴らしさに言葉を失うこと

オ 意外な事実には気持ちを乱すこと

(ii) 傍線部③の「データ」の内容と、それに対する筆者の見解の説明として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えよ。

ア 人間と家畜と野生動物で、地球上の生物の9割を占めており、すでに多すぎることに加え、CO₂排出の観点からも、もう増やすべきではない。

イ 人間と家畜と野生動物で、地球上の生物の9割を占めており、すでに多すぎることに加え、今後の自然界に与える負の影響が大きすぎる。

ウ 人間と家畜で、地球上の生物の9割を占めており、すでに多すぎることに加え、CO₂排出の観点からも、もう増やすべきではない。

エ 家畜と野生動物で8億トンであり、この数字を見れば、人間世界が自然界にどれほど影響を与えているかがよくわかる。

オ 人間と家畜で10億トンであり、この数字を見れば、人間世界が自然界にどれほど影響を与えてしまっているかがよくわかる。

問六 空欄Ⅲについて、当てはまる言葉を、本文中から二字で抜き出して答えよ。

問七 空欄Ⅳについて、当てはまる数字を小数点第一位まで答えよ。

問八 傍線部④「氷があったことが僥倖とすら言える状況」とあるが、どういうことか。四十字以内で説明せよ。

問九 本文の内容に合致するものを、次の中からすべて選び、記号で答えよ。

ア 水産資源は不安定な状況であり、場合によっては危機的である。

イ 人間の存在により、生態系の微妙な均衡が崩れてしまっている。

ウ まったく手つかずの森は存在せず、人間が介入している。

エ 最近、CO₂が温暖化の原因となることが明らかになった。

オ 現在ある森林では地球上にいる大型生物が呼吸により吐き出すCO₂を吸収しきれない。

問十 次に示すのは、【文章】を読んだ拓大一高生が、その後、【資料】（環境基本法）について調べたあとに行った座談会における【会話文】である。これを読んで、後の問い（i）・（ii）に答えよ。

【資料】環境基本法（抜粋）

（環境の恵沢の享受と継承等）

第3条 環境の保全是、環境を健全で恵み豊かなものとして維持することが人間の健康で文化的な生活に欠くことのできないものであること及び生態系が微妙な均衡を保つことによつて成り立っており人類の存続の基盤である限りある環境が、人間の活動による環境への負荷によつて損なわれるおそれが生じてきていることにかんがみ、現在及び将来の世代の人間が健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受するとともに人類の存続の基盤である環境が将来にわたつて維持されるように適切に行われなければならない。

（環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築等）

第4条 環境の保全是、社会経済活動その他の活動による環境への負荷をできる限り低減することその他の環境の保全に関する行動がすべての者の公平な役割分担の下に自主的かつ積極的に行われるようになることによつて、健全で恵み豊かな環境を維持しつつ、環境への負荷の少ない健全な経済の発展を図りながら持続的に発展することができる社会が構築されることを旨とし、及び科学的知見の充実に環境の保全上の支障が未然に防がれることを旨として、行われなければならない。

(国際的協調による地球環境保全の積極的推進)

第5条 地球環境保全が人類共通の課題であるとともに国民の健康で文化的な生活を将来にわたって確保する上での課題であること及び我が国の経済社会が国際的な密接な相互依存関係の中で営まれていることにかんがみ、地球環境保全は、我が国の能力を生かして、及び国際社会において我が国の占める地位に応じて、国際的協調の下に積極的に推進されなければならない。

【会話文】

生徒A 【文章】でも【資料】でも言っているように、環境は（X）なのに、その環境が破壊されつつあるというのは大変なことだよな。

生徒B うん。どうにか対策を考えないといけない問題だけど、どうすればいいかな。

生徒C 【資料】にも書いてあるけど、環境への負荷を減らすしかないよ。だから、（Y）のがいいんじゃないかな。

生徒D たしかに。そうすれば【文章】で筆者が問題としていることへの解決策にもなりそうだね。

(i) 空欄（X）に当てはまる八字を、【資料】から抜き出して答えよ。

(ii) 【資料】に書かれていることをふまえて、空欄（ Y ）に当てはまる内容として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 徐々に経済の規模を縮小させていきながら、環境をもとに戻すように努力する
- イ 国際的協調を前提として、経済的に負荷をおってでも、環境をもとに戻す
- ウ 環境破壊を防ぎつつ、生態系を立て直すためには、人為的に環境を作り変える
- エ 社会が持続的に発展するように積極的に経済活動を行って、科学を発達させる
- オ 科学的根拠に基づき環境破壊を防ぎながら、社会が発展し続ける方法を考える

三

次の「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」は、それぞれ『十訓抄』の一節である。これを読んで後の問いに答えよ。

【文章Ⅰ】

(注1) ののみやのうだいじん 小野宮右大臣とて、^①世には賢人右府と申す。若くより思はれけるは、身にすぐれたる才能なければ、なにごとにつけても、その徳あらはれがたし。まことに賢人^(注2)を立てて、名を得ることをこひ願ひて、ひとすぢに廉潔^{れんけつ}の振舞^{ふるまひ}をぞし給ひける。かかれど人さらに許さず。かへりてあざけるたぐひもあるほどに、あたらしく家を造りて、^(注3)移徙^{いし}せられける夜、火鉢なる火の、御簾^{みす}のへりに走りかかりけるが、やがても消えざりけるを、しばし見給ひけるほどに、やうやうくゆりつきて、次第に燃え上がるを、人あさ^(注4)みて寄りけるを制して、消さざりけり。火、大きになりける時、笛ばかりを取りて、「車寄せよ」とて、出で給ひにけり。いささか物をも取り出づることなし。

これより、おのづから賢者の名あらはれて、帝よりはじめ奉りて、ことのほかに感じて、もてなされけり。かかるにつけては、げにも家一つ焼けむこと、かの殿の身には^②数にもあざりけむかし。

ある人、のちに^③そのゆゑを尋ね奉りければ、「わづかなる走り火の、思はざるに燃え上がる、ただごとにあらず。天の授くる災^{わざはひ}なり。人力にてこれをきほはば、^(注5)これより大きな身の大事出で来べし。なにによりてか、あながちに家一つを惜しむにたらむ」とぞいはれける。

(注1) 小野宮右大臣：藤原実資。博識で、欲がなく心が清らかであることから、賢人右府といわれた。「右府」は右大臣。

(注2) 賢人を立てて：賢人のふるまいをして。

(注3) 移徙：引越。

(注4) あさみて：びっくりして。

(注5) きほはば：争うならば。

【文章Ⅱ】

(注6) 絵仏師良秀といふ僧ありけり。家隣より火出で来たりぬ。(注7) おしおほひてければ、大路へ出でにけり。人の書かする仏もおはしけり。また、ものもうちかづかぬ妻子なども、(注8) さながらありけり。それをも知らず、身ばかり、ただ一人出でたるを(注9) ことにして、むかへのつらに立てりけり。

火、はやわが家に移りて、煙、炎、くゆりけるを見て、おほかたさりげなげにてながめければ、(注10) 知音どもとぶらひけれど、さわがざりけり。「いかに」と見れば、むかへに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづき、うちうなづきして、時時笑ひて、「あはれ、(注11) しつる所得かな。(注12) 年ごろわろく書きけるものかな」といふ時、とぶらひ来たる者ども、「こはいかに。(注13) かくてはあさましきことかな。(注14) もののつき給へるか」といへば、「何条、ものつくべきぞ。年ごろ不動尊の火災を悪しく書きけるなり。はや、見取りたり。これこそは所得よ。(注15) この道を立てて、世にあらむには、仏をだによく書き奉らば、百千の家も出で来たりなむずるものを。我党(わたう)こそさせる能をもおはせねば、物を惜しみ給へ」といひて、あざわらひて立てりけり。そののちにや、良秀の「よぢり不動」とて、人々めであへりけり。をこがましく聞ゆれども、右府の振舞に似たり。

(注6) 絵仏師：仏像・仏画の製作や寺院の装飾に携わった僧侶。

(注7) おしおほひてければ：炎が家を覆ったので。

(注8) さながらありけり：すべて家の中にいた。

(注9) ことにして：なすべきことと考えて。

(注10) 知音：親友。

(注11) しつる所得：うまく手に入れた儲け。

(注12) もののつき給へるか：何か霊がお憑きになったのか。

(注13) 何条：どうして。

(注14) 不動尊：五大明王の一つ。不動明王。悪魔降伏のため、憤怒の相で、背に火炎を負う。

問一 傍線部①「世には賢人右府と申す」とあるが、【文章Ⅰ】ではどのような点を賢人らしいと評価しているか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 火鉢の火が燃え広がるのを予見していた点。

イ 焼けても惜しむものを持っていなかった点。

ウ 火事を天の災いだと考え抵抗しなかった点。

エ 自分よりも周囲の人々の安全を優先した点。

問二 傍線部②「数にもあらざりけむかし」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 右大臣は過去にも火事を経験しており、家が一つ焼けるくらいのは、もはやたいしたことではないから。

イ 右大臣はなるべく物を持たない質素な生活を心がけており、失っても惜しむほどのものは持っていないから。

ウ 右大臣は何より自分自身や周囲の人が無事であったことを嬉しく思い、家が焼けたことは気にしていないから。

エ 右大臣は賢人と呼ばれることが嬉しかったので、それと比べれば家を失うのは悲しむほどのことではないから。

問三 傍線部③「その」が指し示す内容を、二十字以内で答えよ。

問四 傍線部④「年ごろわろく書きけるものかな」とあるが、何を「わろく書きける」のか、【文章Ⅱ】の中から六字で抜き出して答えよ。

問五 傍線部⑤「かくてはあさましきことかな」の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア こんなふうでは本当にすばらしいことであるよ
- イ このようではなんともあきれたことであるよ
- ウ こんな様子では非常に奥ゆかしいことであるよ
- エ このようになってはとても喜ばしいことであるよ

問六 傍線部⑥「この道」とはどのような道のことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 画法を極めて絵仏師として生きる道
- イ 仏教の悟りに至るため修行をする道
- ウ 人脈を広げて多くの家を生み出す道
- エ 賢人として常に自身の徳を高める道

問七 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】はどちらも火事の場面を描いているが、右大臣は落ち着いて笛を持って避難するという賢人らしい振る舞いを見せたのに対し、良秀は慌てて一人で避難をしたことを悔やんでいた。

イ 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】では自宅で火事が起きたときの行動が若干異なっており、右大臣と良秀に対する周囲の評価もそれぞれであるが、どちらも常人離れした考え方をしているという点で一致している。

ウ 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】はどちらも自宅が火事になったときに取るべき行動を描いており、火を消すことよりも大事なものを見極めて、落ち着いて避難したほうが良いという教訓的な内容になっている。

エ 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】ではどちらも自宅を火事で失ったことで共通しているが、右大臣は天が授けた災難であったことがわかりしたのに対し、良秀は大きな火災を見ることができたことを喜んだ。

問八 『十訓抄』は鎌倉時代の説話集である。同じ時代に成立した作品を次の中から選び、記号で答えよ。

ア 平家物語 イ 今昔物語集 ウ 源氏物語 エ おくのほそ道